

怒りをこめて不当処分 粉碎の闘いに決起！

木更津支部は、ここ数年新規採用者が毎年配属され、若々しい青年部員の多くが支部や、青年部運動の先頭になって活動している。

若さと連帯感で活気ある職場！

「四・一五津田沼」を理由とした不当処分は、全く理不尽な動労千葉に対する攻撃だ」

「二百六十名もの『本部』のヘル部隊をあの時点で津田沼電車区に入れた国鉄当局に大きな責任がある」



久留里線を走る怒りのスローガン列車 (80・6・1)

木更津

職場を訪ねて

日刊 動労千葉

80.6.24

No. 464

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八〇九(公衆電話)22)七二〇七

肉いの先頭に 支部役員と青年部

「日刊」編集委員会では、「支部を訪ねて」シリーズの一環として、木更津支部にお願いし、六月十七日、座談会を開催し二時間余にわたっていろいろと話し合ってもらった。急なお願いであったにもかかわらず、支部執行部、分科会長、青年部活動家など十一人の皆さんが出席し、意見や質問もまじえて活発な話し合いが行なわれた。

許せない不当処分
さらに非協力闘争
を強めよう！

座談会は、十二時三十分より木更津支区講習室で山田支部長の司会で始まった。まず、動労千葉高橋執行委員より、座談会の目的と

現に、支部の年齢構成を見ても、約五十名の組合員のうち、三十九歳以下と四十歳以上がほぼ同数となってきており、全体の三分の一強にあたる十七名が青年部員である。

青年部は支部の先頭で
奮闘している。ローカル線廃止
反対の地域支部の中心支部
の一つでもある。



長期強靱な反処分・非協力
闘争に突入している 検査詰所
には、当局の妨害をうちくぐり
抗議ビラが貼りめぐらされて
いる。